

Tungsten RPA
インストールガイド
2026.1

TUNGSTEN
AUTOMATION

© 2015–2026 Tungsten Automation. All rights reserved.

Tungsten and Tungsten Automation are trademarks of Tungsten Automation Corporation, registered in the U.S. and/or other countries. All other trademarks are the property of their respective owners. No part of this publication may be reproduced, stored, or transmitted in any form without the prior written permission of Tungsten Automation.

目次

はじめに.....	5
製品ドキュメント.....	5
オフライン ドキュメント.....	6
トレーニング.....	9
Tungsten Automation 製品のヘルプの入手.....	9
第 1 章 : はじめに.....	11
タスクの概要.....	11
インストール.....	11
管理.....	12
RPA の使用の開始.....	12
ReadMe とリリース ノート.....	13
システム要件.....	13
重要なファイルとフォルダ.....	13
インストール フォルダまたはインストール ディレクトリ.....	13
プロジェクト フォルダまたはプロジェクト ディレクトリ.....	14
アプリケーション データ フォルダまたはアプリケーション データ ディレクトリ.....	15
アプリケーション データ ファイルの場所の変更.....	15
第 2 章 : RPA をインストール.....	16
Windows システム.....	16
Windows 用のファイルのダウンロードと抽出.....	17
Windows 用の RPA とコンポーネントのインストール.....	17
Windows への個別の RPA コンポーネントのインストール.....	18
Windows へのオプションのコンポーネントのインストール.....	18
Linux システム.....	19
Linux への RPA コンポーネントのインストール.....	19
Linux への RoboServer のみのインストール.....	20
ライセンスの有効化.....	20
インストールとコンポーネントの設定.....	21
第 3 章 : オプションのコンポーネントのインストール.....	22
Desktop Automation サービス.....	22
Desktop Automation の要件.....	23
Desktop Automation サービスのインストール.....	26
Document Transformation サービス.....	29

Document Transformation Service の要件.....	30
インストール オプション.....	31
ローカルでの Thin Client の有効化.....	35
IIS Web サイトの設定.....	36
Document Transformation Service のテスト.....	39
認証の設定.....	40
オンライン ラーニングの設定.....	41
Tungsten Analytics for RPA.....	42
第 4 章：トラブルシューティング.....	43
ログ ファイル.....	43
Windows のエラー.....	43
モジュールが見つからない.....	43
テキストがボックスとして表示される.....	44
Document Transformation サービスのエラー.....	44
ライセンス ユーティリティ関連のエラー.....	44
変換の失敗エラーまたはタイムアウト エラー.....	45
Insight ダッシュボードのタイムゾーン.....	45

はじめに

このガイドでは、Tungsten RPA (Robotic Process Automation) をインストールするための要件と手順について説明します。

製品ドキュメント

Tungsten RPA のドキュメント セットは、次の場所から入手できます。

<https://docshield.tungstenautomation.com/Portal/Products/RPA/2026.1-cqyh2o7vk9/RPA.htm>

完全なドキュメント セットにオンラインでアクセスするには、インターネットに接続する必要があります。

インターネットに接続せずにアクセスする方法については、[オフラインドキュメント](#)を参照してください。

ドキュメント セットには、次のようなリソースがアルファベット順で含まれています。

***Tungsten RPA* 管理者ガイド**

Tungsten RPA での管理タスクについて説明します。

***Tungsten RPA* のベストプラクティス ガイド**

Tungsten RPA 環境でロボット ライフサイクル マネジメントを使用しながらパフォーマンスを最適化し、成功を確実にするために推奨される方法とテクニックを提供します。

***Tungsten RPA Desktop Automation* サービス ガイド**

リモート コンピューターで Desktop Automation を使用するために必要な Desktop Automation サービスを設定および管理する方法について説明します。

***Tungsten RPA* 開発者ガイド**

Java、.NET、および REST API を使用して Management Console 上でロボットを実行するための情報と手順が記載されています。

***Tungsten RPA* ロボット構築スタート ガイド**

Tungsten RPA を使用したロボット構築処理を示すチュートリアルが記載されています。

Tungsten RPA のヘルプ

Tungsten RPA の使用方法について説明しています。ヘルプは Tungsten RPA 製品内から利用できます。

Tungsten RPA インストール ガイド

Tungsten RPA およびそのコンポーネントを開発環境にインストールする方法について説明します。

Tungsten RPA Java API documentation (Tungsten RPA Java API ドキュメント)

開発者が Tungsten RPA で使用できる Tungsten RPA Java API パッケージおよびクラスへのアクセスを提供します。

i Tungsten RPA API は、元の製品名である「RoboSuite」に対する詳細な参照を含んでいます。RoboSuite の名前は下位互換性を確保するために残されています。API ドキュメントの中では、RoboSuite という用語は Tungsten RPA と同じ意味で使われています。

Tungsten RPA リリース ノート

他の Tungsten RPA ドキュメントからは入手できない最新の詳細やその他の情報が含まれています。

Tungsten RPA 技術仕様

サポートされるオペレーティング システムおよびその他のシステム要件に関する情報が含まれていません。

Tungsten RPA アップグレード ガイド

Tungsten RPA やそのコンポーネントを新しいバージョンにアップグレードする手順が含まれています。

Tungsten RPA ユーザー ガイド

Tungsten RPA とそのコンポーネントの使用手順が記載されています。Tungsten RPA のヘルプ のトピックとともに、ヘルプには含まれていない詳細な内容が記載されています。

オフライン ドキュメント

ドキュメントをオフライン モードで使用できるようにするには、ダウンロードした Tungsten RPA 製品パッケージからドキュメント ファイルを取得します。

製品パッケージには、オフラインで使用するための次のドキュメント ファイルが含まれています。

- TungstenRPADocumentation_2026.1_EN.zip
すべての Tungsten RPA のドキュメントが英語で含まれています。
- TungstenRPADocumentation_2026.1_JA.zip
英語のみで提供されている Java API ドキュメントを除く、日本語の Tungsten RPA ドキュメント セット全体が含まれています。
- TungstenRPADocumentation_2026.1_FR.zip

英語のみで提供されている Java API ドキュメントを除く、フランス語の Tungsten RPA ドキュメントセット全体が含まれています。

- TungstenRPAManagementConsoleDocumentation_2026.1.zip
Management Console と Kapplets の英語、日本語、およびフランス語のドキュメントが含まれています。

Tungsten RPA 製品をインストールした後に、次の手順を実行します。

1. 必要な言語の TungstenRPADocumentation.zip ファイルの内容をコンピュータ上の場所に抽出します。
2. .zip ファイルの名前に付いている言語コードに応じて、抽出したフォルダの名前を EN、JA、または FR のいずれかに変更します。たとえば、TungstenRPADocumentation_2026.1_EN の場合は、名前を EN に変更する必要があります。
各言語の抽出済みフォルダには、次のフォルダが含まれています。
 - api
 - help
 - print
 - Resources
3. TungstenRPAManagementConsoleDocumentation.zip ファイルの内容をコンピュータ上の場所に抽出します。
抽出したフォルダの名前を変更する必要はありません。
抽出したフォルダには、3つの言語すべてのドキュメントを含む TungstenRPAManagementConsoleDocumentation.war ファイルが含まれています。

指示に従って RPA コンポーネントのオフライン ドキュメントをインストールすると、アクティブなインターネット接続が存在する場合でも、コンポーネントではデフォルトでオフライン バージョンのドキュメントが使用されます。

API オフライン ドキュメント

TungstenRPADocumentation.zip ファイルから抽出したフォルダには、英語の API リファレンスが含まれています。このフォルダから、RPA Java および RoboSuite .NET API のドキュメントにアクセスします。

Design Studio のオフライン ドキュメント

1. 抽出して名前を変更したドキュメント フォルダが含まれている場所に移動します。
2. EN、JA、または FR フォルダを製品ファイル内の documentation フォルダにコピーします。
例: C:\Program Files\Tungsten RPA 2026.1.0.0\documentation
3. Design Studio を開始し、[設定] > [Design Studio 設定] へ移動します。
4. [一般] タブの [ドキュメントの場所] で、[オフライン] を選択します。
5. 変更を保存します。

オンライン モードに切り替えるには、[Design Studio 設定] の [オンライン] を選択し、変更を保存します。

Management Console のオフライン ドキュメント

Management Console のオフライン ドキュメントは、コンピュータ上の場所にすでにコピーされている TungstenRPAManagementConsoleDocumentation.war ファイルに含まれています。

オフラインモードで Management Console ドキュメントを使用するには、次のステップを実行します。

1. TungstenRPAManagementConsoleDocumentation.war をパソコンのフォルダに抽出します。
2. application.properties ファイルで、解凍したフォルダの場所に mc.help.offline-base-url プロパティを設定します。

場所の URL の先頭の部分は、「file:///」である必要があります。例:

```
mc.help.offline-base-url=  
file:///c:/TungstenRPAManagementConsoleDocumentation
```

オンライン モードに切り替えるには、追加したプロパティを設定ファイルから削除し、変更を保存して、サーバーを再起動します。

Docker の場合は、MC_HELP_OFFLINEBASEURL 環境変数を使用して、オフライン ドキュメントを含むフォルダへのパスを指定します。

Desktop Automation サービスのオフライン ドキュメント

1. 抽出して名前を変更したドキュメント フォルダが含まれている場所に移動します。
2. EN、JA、または FR フォルダを製品ファイル内の documentation フォルダにコピーします。

例: C:\Program Files\Tungsten RPA Desktop Automation
2026.1.0.0\documentation

オンライン モードに切り替えるには、Tungsten RPA Desktop Automation 2026.1.0.0 フォルダから documentation フォルダを削除するか、移動します。

Process Discovery のオフライン ドキュメント

この機能は、RPA 2026.1 では非推奨となっており、以降のリリースでは削除される予定です。Process Discovery はインストールしないようにしてください。

Kapplets のオフライン ドキュメント

Tungsten RPA Kapplets のオフライン ドキュメントは、コンピュータ上の場所にすでにコピーされている TungstenRPAManagementConsoleDocumentation.war ファイルに含まれています。

オフラインモードで Kapplets ドキュメントを使用するには、次のステップを実行します。

1. TungstenRPAManagementConsoleDocumentation.war をパソコンのフォルダに抽出します。
2. application.properties ファイルで、解凍したフォルダの場所に kapplets.help.offline-base-url プロパティを設定します。

場所の URL の先頭の部分は、「file:///」である必要があります。例:

```
kapplets.help.offline-base-url=  
file:///c:/TungstenRPAManagementConsoleDocumentation
```

オンライン モードに切り替えるには、追加したプロパティを設定ファイルから削除し、変更を保存して、サーバーを再起動します。

Docker の場合は、`KAPPLETS_HELP_OFFLINEBASEURL` 環境変数を使用して、オフライン ドキュメントを含むフォルダへのパスを指定します。

トレーニング

Tungsten Automation は、製品を最大限に活用できるように、オンデマンド トレーニングおよびインストラクター主導のトレーニングを提供しています。トレーニング コースとスケジュールの詳細については、[Tungsten Automation Learning Cloud](#) を参照してください。


Tungsten RPA ドキュメント サイトには、コンポーネントの理解および RPA でのロボット作成に関する基礎の確認のためのチュートリアルが用意されています。<https://docshield.tungstenautomation.com/Portal/Products/RPA/2026.1-cqvh2o7vk9/RPA.htm> を参照してください。

Tungsten Automation 製品のヘルプの入手

[Tungsten Automation Knowledge Portal (Tungsten Automation ナレッジ ポータル)] リポジトリにある記事の内容は定期的に更新され、Tungsten Automation 製品の最新情報について参照することができます。製品に関してご不明の点がある場合は、Knowledge Portal (ナレッジ ポータル) で情報を検索することをお勧めします。

[Tungsten Automation Knowledge Portal] にアクセスするには次のリンクを使用してください。

<https://knowledge.tungstenautomation.com/>

 Knowledge Portal は Google Chrome、Mozilla Firefox、または Microsoft Edge 向けに最適化されています。

Knowledge Portal では次のような機能を利用できます。

- 強力な検索機能で必要な情報をすぐに見つけることができます。

[Search (検索)] ボックスに目的の語句を入力し、検索アイコンを選択してください。

- 製品情報、設定の詳細、リリース情報などのドキュメント。

記事を見つけるには、Knowledge Portal のホームページにアクセスし、製品に該当するソリューション ファミリーを選択するか、[View All Products (すべての製品を表示)] ボタンを選択します。

Knowledge Portal のホームページからは、次の操作を実行できます。

- Tungsten Automation Community (Tungsten Automation コミュニティ) へのアクセス (全カスタマー)。

[Tungsten Automation Resources (Tungsten Automation リソース)] メニューで、**[Community (コミュニティ)]** リンクを選択します。

- Tungsten Automation Customer Portal (Tungsten Automation カスタマー ポータル) へのアクセス (一部のカスタマーのみ)。
[\[Support Portal Information \(サポート ポータルの情報\)\]](#) ページに移動し、**[Log in to the Tungsten Automation Customer Portal (Tungsten Automation カスタマー ポータルにログイン)]** を選択します。
- Tungsten Automation Partner Portal (Tungsten Automation パートナー ポータル) へのアクセス (一部のパートナーのみ)。
[\[Support Portal Information\]](#) ページに移動し、**[Log in to the Tungsten Automation Partner Portal (Tungsten Automation パートナー ポータルにログイン)]** を選択します。
- サポート コミットメント、ライフサイクル ポリシー、電子フルフィルメントの詳細、およびセルフサービス ツールへのアクセス。
[\[Support Details \(サポートの詳細\)\]](#) ページに移動し、適切な記事を選択します。

第1章

はじめに

インストールガイドは新規インストール用であるため、アップデートとアップグレードについての説明は記載されていません(『Tungsten RPA アップグレードガイド』を参照してください)。

Tungsten RPA をインストールする前に、次の情報をご確認してください。

- [タスクの概要](#)
- [システム要件](#)
- [ReadMe とリリース ノート](#)
- [重要なファイルとフォルダ](#)

タスクの概要

RPA およびコンポーネントのインストールについては、組織ごとに方法が異なります。以下の概要では、RPA のインストールの実行、管理、および新規インストールを使用するための一般的なタスクを示します。

- [インストール](#)
- [管理](#)
- [RPA の使用の開始](#)

インストール

多くの場合、インストールは IT 技術者またはシステム管理者が実行します。しかし、一部の開発者やその他のユーザーは、非本番環境に RPA をすぐにインストールして使用する必要がある場合もあります。

1. [ReadMe とリリース ノート](#) を確認してください。
2. [システム要件](#) とオプションの依存関係を満たすようにします。
3. [RPA をインストール](#)を行います。
4. [ライセンスの有効化](#)を行います。
5. [インストールとコンポーネントの設定](#)を行います。
6. [オプションのコンポーネントのインストール](#)を行います。
7. [トラブルシューティング](#)を行います。

管理

製品とオプションのコンポーネントをインストールした後に、通常、システム管理者は次のタスクを実行します。このガイドに含まれていないタスクについては、『Tungsten RPA 管理者ガイド』および『Tungsten RPA のヘルプ』を参照してください。

1. Management Console と [ライセンスの有効化](#) を開始します。
2. [インストールとコンポーネントの設定](#) を行います。
3. RoboServer、データベース、プロジェクト、デバイス、HA ノード、およびクラスタを設定します。
4. サービス認証を設定します。
5. ユーザーとグループの作成および管理を行います。
6. 製品の展開と保守を行います。

RPA の使用の開始

ガイドとして利用できるドキュメント、トレーニング、およびチュートリアルについては、「[はじめに](#)」を参照してください。

以下の概要では、RPA およびそのコンポーネントを使用する典型的な順序について説明します。

1. Management Console の開始:
 - a. スタート メニューから起動するか、<INSTALLATION FOLDER>/bin にある実行可能ファイルを実行します。
 - b. ブラウザを開き、サーバーにアクセスして認証を行います。
 - c. 入力を求めるメッセージが表示されるので、ライセンス情報を入力します。
検証後に、Management Console が表示されます。
2. Design Studio を開始します。
 - a. スタート メニューから起動するか、<INSTALLATION FOLDER>/bin にある実行可能ファイルを実行します。
 - b. 入力を求めるメッセージが表示されるので、Management Console の URL を入力します。
 - c. [OK] を選択します。
必要に応じて資格情報を使用してログインし、Design Studio に戻ります。
3. ロボットを構築します。
4. ロボットを Management Console にアップロードします。
5. ロボットを実行するには、[Management Console] > [管理] > [RoboServer] を使用して RoboServer クラスタを作成します。
6. RoboServer を開始します。

7. ロボットを実行します。
8. ログ ファイルを確認してエラーのトラブルシューティングを行います。

ReadMe とリリース ノート

RPA をインストールする前に、ReadMe ファイルとリリース ノートを確認してください。

i 常に最新のリリースをインストールしてください。アップデート リリースは累積的で、すべてのインストール パッケージが含まれています。ReadMe ファイルはアップデート リリースに含まれていません。

これらのドキュメントには、追加の要件、既知の問題、新機能および拡張された機能の説明に関する最新の情報が記載されています。

システム要件

RPA をインストールする前に、システムが最小要件を満たしていることを確認してください。

詳細については、『Tungsten RPA 技術仕様』を参照してください。「[関連ドキュメント](#)」を参照してください。

追加の依存関係と制限については、このガイドで説明します。

パフォーマンスを最適化するためには、次の手順を実行します。

- ユーザーがリアルタイムの結果を必要とするソリューションの場合、通常は CPU 速度がボトルネックになります。ハードウェア プラットフォームで利用可能な最速の CPU を使用してください。
- それぞれの RoboServer、Management Console、および Document Transformation サービスを常に専用ハードウェアで実行することをお勧めします。これらの RPA コンポーネントと同じハードウェア上でデータベース サーバーやその他のサービスを実行しないようにしてください。

重要なファイルとフォルダ

Tungsten RPA ファイルとフォルダについて詳しく説明します。

- [インストール フォルダまたはインストール ディレクトリ](#)
- [プロジェクト フォルダまたはプロジェクト ディレクトリ](#)
- [アプリケーション データ フォルダまたはアプリケーション データ ディレクトリ](#)

インストール フォルダまたはインストール ディレクトリ

Tungsten RPA がインストールされているデフォルトの場所。

Windows:

Windowsで、インストール フォルダのデフォルトは次のとおりです:

C:\Program Files\Tungsten RPA 2026.1.0.0

i Tungsten RPA をカスタム フォルダにインストールする場合は、インストール フォルダとすべての親フォルダの名前が Windows インストールのシステム ロケールに準拠している必要があります。システム ロケール設定は、「非 Unicode プログラムの言語」の「地域の設定」にあります。

Linux:

Linux では、TungstenRPA-2026.1.0.0 という名前のデフォルトのディレクトリは、インストール パッケージを抽出したディレクトリにあります。

Windows および Linux の重要な項目

インストール フォルダ (Windows) またはインストール ディレクトリ (Linux) には、次のような重要な項目が含まれています。

ファイル名またはフォルダ名	説明
.bin:	RPA のすべての実行可能プログラムが含まれています。
API:	RPA 統合 API に関連するファイルが含まれています。
lib (Windows)、および lib または jdbc (Linux)	インストールされている JDBC データベース ドライバーが含まれています。 これらのドライバーは常に RPA アプリケーションで利用できます。 JDBC ドライバーの管理については、『Tungsten RPA のヘルプ』の「データベース ドライバー」を参照してください。

プロジェクト フォルダまたはプロジェクト ディレクトリ

プロジェクトのデフォルトの場所を指定します。Project フォルダには、ロボットとタイプのライブラリが含まれています。**[Management Console] > [設定]** オプションを使用して Project フォルダの場所を設定します。

Windows:

C:\Users\username\Documents\My Robots\2026.1.0.0

Linux:

~/Tungsten RPA/2026.1.0.0

Project ディレクトリには、Library という名前のサブ ディレクトリが 1 つ含まれている必要があります。

アプリケーション データ フォルダまたはアプリケーション データ ディレクトリ

RPA 専用のプライベートなファイルが含まれますが、同じコンピュータでもユーザーごとに内容が異なります。

Windows:

C:\Users\username\AppData\Local\Tungsten RPA\2026.1.0.0

Linux:

~/.Tungsten RPA/2026.1.0.0

アプリケーション データ ファイルの場所の変更

アプリケーション データ ファイルの場所を変更するには、installation\bin フォルダ内の common.conf ファイルを編集します。

1. 次の 2行 を追加します:

- wrapper.java.additional.<NUMBER>=-Dkapow.applicationDataFolder="Folder containing Configuration folder"
 - wrapper.java.additional.<番号>.stripquotes=TRUE
- ここで、<NUMBER> は一意の整数です。

2. フォルダまたはディレクトリに対する読み取りおよび書き込みアクセス権がユーザーに割り当てられていることを確認してください。

通常の場合では、このフォルダまたはディレクトリ内のアイテムを手動で変更または削除しないようにしてください。代わりにユーザー インターフェイス ツールを使用します。

アプリケーション データには、次のような重要なアイテムが含まれています。

ファイル名またはフォルダ名	説明
証明書	RPA という HTTPS 証明書が含まれています。 『Tungsten RPA 管理者ガイド』を参照してください。
設定	設定ファイルが含まれています。
データ	Management Console で使用される組み込み Derby データベースが含まれています。 『Tungsten RPA 管理者ガイド』を参照してください。
開発用データベース	RPA の導入時にサンプル プロジェクトで使用できる開発用データベースが含まれています。
ログ	ログファイルが含まれます。

第2章

RPA をインストール

この章では、[Tungsten Automation フルフィルメント サイト](#)からダウンロードした RPA 製品パッケージのインストールに関する情報と手順について説明します。

本番環境または非本番環境 (またはその両方) での RPA の使用方法、およびグループまたは個人としての使用方法に応じて、インストール パッケージのすべてまたは一部をインストールします。たとえば、非本番環境で RPA をすぐにインストールしてロボットの作成を開始する必要があるロボット開発者は、Management Console と Design Studio のみをインストールしてください。

デフォルトのインストールのパスと場所については、「[重要なファイルとフォルダ](#)」を参照してください。

システムが最小要件を満たしていることを確認した後に、Windows または Linux 環境へのインストールを続行します。

i 常に最新のリリースをインストールしてください。アップデート リリースは累積的で、すべてのインストール パッケージが含まれています。

システム環境に基づいて、次の方法で Tungsten RPA をインストールしてください:

- [Windows システム](#)
- [Linux システム](#)

Windows システム

RPA のインストール方法は、使用方法と環境 (非本番環境、本番環境、またはその両方) に応じて異なります。

Windows システム用に、すべての RPA インストール ファイルには .msi 拡張子が含まれます。

- [Windows 用のファイルのダウンロードと抽出](#)
- [Windows 用の RPA とコンポーネントのインストール](#)
- [Windows への個別の RPA コンポーネントのインストール](#)
- [Windows へのオプションのコンポーネントのインストール](#)
- [ライセンスの有効化](#)

i RPA をインストールするには MS Windows の管理者権限が必要です。

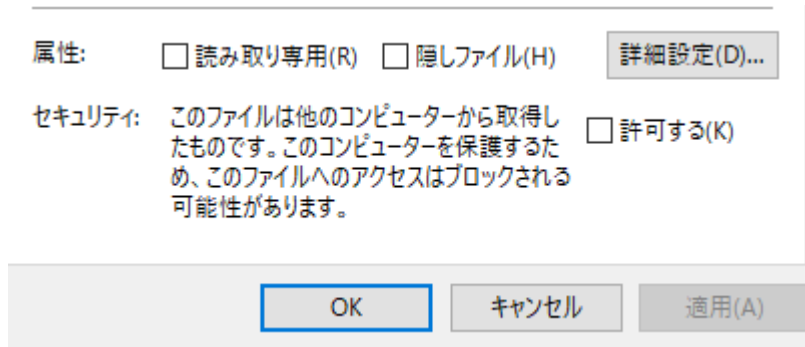
Windows 用のファイルのダウンロードと抽出

RPA インストール パッケージは Windows の .zip ファイルに含まれています。このファイルには、Windows システムにインストールできるオプションのコンポーネントを含む、RPA コンポーネント用の個別のインストーラが含まれています。

リリースに含まれるファイルの完全なリストについては、ReadMe を参照してください。

1. インストール パッケージをダウンロードする保存先フォルダを選択または作成します。
この RPA バージョンと更新プログラムが保存されている Program Files フォルダにパッケージを配置することをお勧めします。
2. RPA インストール パッケージの zip ファイルをターゲット フォルダにダウンロードします。
3. インストール中に問題が発生しないように、ファイルの内容を抽出する前に、.zip ファイルを右クリックして **[許可する]** を選択します。

[許可する] オプションが表示されない場合は、この手順を無視してください。



4. zip ファイルを右クリックし、**[すべて展開]** を選択します。
5. ファイルの内容の展開先を選択します。
6. 抽出後にファイルを表示する場合は、チェックボックスをオンにします。
7. **[抽出]** を選択します。
パッケージ内のすべてのファイルがターゲット フォルダに解凍されます。
8. .msi という拡張子を持つファイルのリストを確認し、インストールするアイテムを決定します。

Windows 用の RPA とコンポーネントのインストール

完全インストールでは、Design Studio と Management Console を含む、RPA を使用するために必要な最小限のコンポーネントが提供されます。

RPA をインストールした後に、Kapplets を設定することをお勧めします。次に、必要に応じてオプションのコンポーネントを追加します。

RPA をインストールするために次の作業を行います。

1. TungstenRPA-2026.1.msi ファイルの実行可能ファイルを実行します。
「[タスクの概要](#)」を参照してください。インストーラ ファイルを実行した後に、表示されるプロンプトに従ってインストールを進めます。
2. RPA に個別のコンポーネントをインストールする場合は、[Windows への個別の RPA コンポーネントのインストール](#)を参照してください。
3. オプションのコンポーネントをインストールするには、「[Windows へのオプションのコンポーネントのインストール](#)」を参照してください。

Windows への個別の RPA コンポーネントのインストール

場合によっては、Design Studio と RoboServer の個別のインスタンスをインストールする必要があることがあります。

Design Studio のみのインストール

一元的なライセンス サーバーがあり、Design Studio の別のコピーが必要な場合は、このインストールを実行します。

Design Studio インストーラでは RoboServer または API はインストールされません。

Design Studio のみをインストールするには、TungstenRPADesignStudio-2026.1.msi インストーラを実行します。

RoboServer のみのインストール

専用の RoboServer コンピューターをセットアップする場合は、このインストールを実行します。場合によっては、リモート サーバーに RoboServer をインストールして実行する必要があることがあります。

RoboServer は、クライアントへのサービスとしてロボットを実行するためのコンポーネントです。リモート サーバーと設定が必要です。リモートの RoboServer をインストールして設定するには、『Tungsten RPA 管理者ガイド』を参照してください。

Tungsten RPARoboServer インストーラでは Design Studio はインストールされません。

RoboServer のみをインストールするには、TungstenRPARoboServer-2026.1.msi ファイルを実行します。

Windows へのオプションのコンポーネントのインストール

RPA インストール パッケージには、オプションのコンポーネントが用意されています。

これらのコンポーネントを RPA でインストールして使用する場合は、追加の要件、依存関係、および設定が必要になります。通常、これらのコンポーネントの設定と展開を完了するには、システム管理者のロールが必要です。

i Tungsten Automation Process Discovery、Process Discovery Analyzer、および Process Discovery Agent はインストールしないようにしてください。これらのコンポーネントは廃止されています。

- [Desktop Automation サービス](#)
- [Document Transformation サービス](#)
- [Tungsten Analytics for RPA](#)

Linux システム

RPA のインストール方法は、使用方法と環境 (非本番環境、本番環境、またはその両方) に応じて異なります。

Linux システム用に、RPA には DEB パッケージを含むすべてのコンポーネントを含んだ tar.gz パッケージが用意されています。

各リリースのファイルの完全なリストについては、ReadMe を参照してください。

Linux 上にインストールする場合は、次のトピックを参照してください。

- [Linux への RPA コンポーネントのインストール](#)
- [Linux への RoboServer のみのインストール](#)

i Linux 上の非特権ユーザーとして RPA をインストールできます。

Linux への RPA コンポーネントのインストール

完全インストールでは、RPA、Design Studio、および Management Console を使用するために必要な最小限のコンポーネントが提供されます。また、これらのコンポーネントをインストールした後に、Kapplets を設定することをお勧めします。次に、必要に応じてオプションのコンポーネントを追加します。

Linux システムに RPA をインストールするには、次のタスクを実行します。

- [Linux パッケージのダウンロードと解凍](#)
- [アクセスとコンポーネントの設定](#)

Linux パッケージのダウンロードと解凍

1. Linux インストール パッケージを目的のディレクトリにダウンロードします。
2. 次のいずれかの方法でインストール パッケージを抽出します。
 - ファイルを右クリックし、適切な抽出オプションを選択する。
 - コマンドライン プロンプトから tar コマンドを入力して、tar.gz ファイルをターゲット ディレクトリに抽出する。

```
$tar xzf TungstenRPA-2026.1.0.0.tar.gz -C /destination_directory
```

パッケージ内のすべてのファイルが目的のディレクトリに抽出されます。

アクセスとコンポーネントの設定

Linux インストール パッケージ内のファイルを抽出した後に、次のコマンドを実行してアクセスを設定してから、コンポーネントを設定します。

1. root 権限を持つユーザーとして次のコマンドを実行します。

これらのコマンドによって chrome-sandbox ファイルの権限を管理し、chrome-sandbox の作成者と所有者をルートとして設定して SUID モードを有効にします。

- chown root:root chrome-sandbox
- chmod 4755 クロムサンドボックス

chrome-sandbox ファイルは次の場所にあります。

```
.../TungstenRPA-[ビルド番号]/nativelib/hub/linux-x64/[ビルド番号]/  
node_modules/cef/chrome-sandbox
```

2. [ライセンスの提供](#)を行います。
3. コンポーネントを設定し、(必要に応じて) コンテナベースの展開をセットアップします。
『Tungsten RPA 管理者ガイド』を参照してください。

Linux への RoboServer のみのインストール

RPA Linux tar.gz インストール パッケージには、RoboServer をサービスとしてインストールするための DEB パッケージが含まれています。場合によっては、リモート サーバーに RoboServer をインストールして実行する必要があることがあります。

RoboServer は、クライアントへのサービスとしてロボットを実行するためのコンポーネントです。リモート サーバーと設定が必要です。リモートの RoboServer をインストールして設定するには、『Tungsten RPA 管理者ガイド』を参照してください。

それぞれの DEB パッケージには、RoboServer を Linux /etc/init.d サービスとして実行する RoboServer ランチャーが含まれています。ランチャーによってシステムの起動時に RoboServer が自動的に起動します。

roboserver を init.d サービスとして実行するには、『Tungsten RPA 管理者ガイド』の「展開」の章を参照してください。

ライセンスの有効化

ライセンスのタイプとキーは Management Console 内で排他的に管理されます。他のすべての RPA コンポーネントは、ライセンスの取得のために Management Console に接続します。

ライセンスのタイプごとに、アクセスできる RPA の機能と、クラスタ内で実行できるロボットの数が決まっています。本番キーおよび非本番キーがある場合は、それらのキーを同じ Management Console システムで使用することができます。

通常、ライセンスはシステム管理者のロールを割り当てられたユーザーが管理します。ライセンスの管理の詳細については、『Tungsten RPA 管理者ガイド』を参照してください。

- 同じライセンス キーを複数の Management Console で使用しないようにしてください。
- RoboServer のライセンス情報は Management Console によって自動的に入力されるため、入力を行う必要はありません。
- Desktop Automation サービスを使用するには、このコンポーネントのライセンスを Tungsten Automation から個別に取得してください。

RPA 製品をインストールした後の次のタスクとして、有効なライセンスをアクティブ化します。

1. ライセンス キーを取得します。
2. Management Console を起動します。
ライセンス ダイアログ ボックスが表示されます。
3. ライセンス情報を入力します。
4. [OK] を選択します。

インストールとコンポーネントの設定

RPA のインストール後に、インストールおよびコンポーネントの設定を行います。これらのタスクは、管理者ロール権限が割り当てられたユーザーが実行します。

『Tungsten RPA 管理者ガイド』を参照してください。Management Console の設定と管理については、『Tungsten RPA のヘルプ』も参照してください。

1. インストールとコンポーネントの設定を行います。
少なくとも、Management Console と Kapplets の設定を行います。
2. ロボット開発者とユーザーに必要な RoboServer、データベース、プロジェクト、デバイス、HA ノード、クラスタなどの要素を設定します。
3. サービス認証を設定します。
4. ユーザーとグループの作成および管理を行います。
5. サーバー アカウント (GitHub、GitLab、または Bitbucket など) で Git を設定して、ソース ファイルを管理し、Design Studio で他のユーザーと共同作業を行います。
6. 製品の展開と保守を行います。
RPA インストールを展開するには、『Tungsten RPA 管理者ガイド』の「展開」の章を参照してください。

第3章

オプションのコンポーネントのインストール

RPA のインストール後に、次のようなオプションのコンポーネントのインストールを検討してください。

- [Desktop Automation サービス](#)
- [Document Transformation サービス](#)
- Tungsten Analytics for RPA
- ロボット ファイル システムを使用したシンクロナイザー
- Git を使用したシンクロナイザー (Git リポジトリへのアクセスが必要です)

i Process Discovery および関連コンポーネントはインストールしないようにしてください。これらは非推奨のコンポーネントで、後続のリリースで削除される予定です。

RPA との互換性がある次の Tungsten Automation 製品も検討してください。

- Tungsten Insight
- Tungsten SignDoc
- Tungsten TotalAgility

要件については、『Tungsten RPA 技術仕様』およびそれぞれの製品の『技術仕様』を参照してください。

Desktop Automation サービス

Desktop Automation サービスを使用して、ネットワーク コンピューター上の Windows および Java アプリケーションを自動化します。Desktop Automation により、デスクトップまたはターミナル上のアプリケーションを制御することで、手動のプロセスを置き換えます。

Desktop Automation サービスを Design Studio および Management Console と組み合わせて使用して、リモート コンピュータ上でロボットを自動化して実行します。

リモート Desktop Automation は、Windows オペレーティング システムでのみサポートされます。

- [Desktop Automation の要件](#)
- [Desktop Automation サービスのインストール](#)

Desktop Automation の要件

Desktop Automation サービスをインストールする前に、『Tungsten RPA 技術仕様』に記載されている最小システム要件とともに、このトピックの追加の要件と前提条件を満たしていることを確認してください。

- [ライセンスの取得](#)
- [リモート コンピュータへのインストール](#)
- [RPA コンポーネントのバージョン](#)
- [ファイアウォール ルールとデフォルトのポート](#)
- [Java Access Bridge](#)
- [RFS および WebDAV リダイレクター](#)
- [Internet Explorer モードでの Microsoft Edge](#)
- [SAP の前提条件](#)

ライセンスの取得

Desktop Automation サービスをインストールして使用するには、Tungsten Automation からの別のライセンスが必要です。

リモート コンピュータへのインストール

Desktop Automation サービスは、接続先の RoboServer とは別のコンピューターにインストールする必要があります。RoboServer と Desktop Automation サービスが同じコンピューターにインストールされている場合は、一度に 1 つのロボットのみを実行できます。

Desktop Automation サービスを Design Studio と同じローカル コンピューターにインストールしないようにしてください。

RPA コンポーネントのバージョン

Desktop Automation サービス バージョンは、Design Studio や Management Console などの他の Tungsten RPA コンポーネントのバージョンと一致する必要があります。

i RPA のバージョンを更新またはアップグレードする場合は、Desktop Automation サービスのバージョンも更新またはアップグレードする必要があります。

ファイアウォール ルールとデフォルトのポート

Desktop Automation サービスが手動で設定されていない状態で起動した場合は、デフォルトの設定が使用され、デフォルトのポートでリッスンが実行されます。

Desktop Automation サービスでは、次の 2 つのファイアウォール ルールが作成されます。

- Tungsten RPA DA サービスは、デフォルトでポート 49998 を開いて使用します。

- Tungsten RPA DA サービス ストリームは、デフォルトでポート 49999 を開いて使用します。

必要に応じてポートの再割り当てを行い、適切なポートを使用するように Desktop Automation サービスの設定を編集します。『Tungsten RPA Desktop Automation サービス ガイド』を参照してください。

Java Access Bridge

使用している JRE バージョンに基づいて、Java Runtime Environment 用の Java Access Bridge を設定するには、次の情報を使用します。

- [JRE 7 以降](#)
- [JRE 6 以前](#)

次の表に、Java Access Bridge Windows ファイルの一覧を示します。

Java Access Bridge ファイル	宛先ディレクトリ
WindowsAccessBridge-32.dll	%WINDOWSHOME%\SysWOW64
WindowsAccessBridge-64.dll	%WINDOWSHOME%\SYSTEM32
JavaAccessBridge.dll	%JAVAHOME%\bin
JAWTAccessBridge.dll	%JAVAHOME%\bin
accessibility.properties	%JAVAHOME%\lib
access-bridge.jar	%JAVAHOME%\lib\ext
jaccess.jar	%JAVAHOME%\lib\ext

JRE 7 以降

以下の情報を使用して、JRE バージョン 7 以降の Java Access Bridge へのアクセスを許可します。

JRE ソフトウェアとドキュメントについては、Oracle Web サイトのダウンロード ページを検索してください。

1. Java インストール フォルダ内の bin フォルダに移動します。
2. 次のコマンドを実行します。

```
jabswitch -enable
```

JRE 6 以前

次の情報を使用して、JRE バージョン 6 以前の Java Access Bridge へのアクセスを許可します。

JRE ソフトウェアとドキュメントについては、Oracle Web サイトのダウンロード ページを検索してください。

1. Java バージョン 1.6 を必要とする古いアプリケーションの場合は、ファイルを指定されたターゲット フォルダにコピーします。ここで、%WINDOWSHOME% は Microsoft Windows がインストールされているフォルダです。

例: C:\WINDOWS は Windows のフォルダであり、%JAVAHOME% は JDK または JRE がインストールされているフォルダです。

以下に、Java SE 6 Update 24 のフォルダ名の例を示します。

- JDK: C:\Program Files\Java\jdk1.6.0_24\jre
- JRE: C:\Program Files\Java\jre6

2. Java Access Bridge をテストするには、次の手順を実行します。
 - a. **SwingSet2** アプリケーションを実行します。
 - b. **JavaMonkey.exe** アプリケーションを実行します。
 - c. Java Monkey アプリケーションで **File > Refresh Tree** を選択します。
SwingSet2 アプリケーションが表示されます。
3. あるいは、**JavaFerret.exe** アプリケーションを使用します。

RFS および WebDAV リダイレクター

RPA を使用してリモート デバイス上の Java プログラムまたは Java アプレットを自動化するには、自動化するアプリケーションに必要な Java バージョンをデバイスにインストールし、アプリケーションが使用する Java ランタイム環境で Java Access Bridge を有効にします。利用可能な最新の Java バージョンを使用することをお勧めします。

Desktop Automation サービスがインストールされているコンピュータでロボット ファイル システムを使用する場合は、WebDAV リダイレクターをサービスに接続する必要があります。一部のオペレーティング システムには WebDAV がデフォルトで含まれていないため、ダウンロードして手動でインストールする必要がある場合があります。

Windows Server の場合は、WebDAV リダイレクター オプションを選択します。

Internet Explorer モードでの Microsoft Edge


Internet Explorer モードの Microsoft Edge を使用する場合は、Internet Explorer 11 を自動化するために次の要件を確認してください。

- `iexplore.exe` という名前の DWORD 値を持つ `FEATURE_BFCACHE` サブキーがターゲット コンピュータのレジストリに存在することを確認します。
このサブキーにより、作成される Internet Explorer のインスタンスへの接続がドライバで保持されます。
64 ビット Windows の場合、`HKEY_LOCAL_MACHINE\SOFTWARE\Wow6432Node\Microsoft\Internet Explorer\Main\FeatureControl\FEATURE_BFCACHE` キーを調べます。
`FEATURE_BFCACHE` サブキーが存在しない場合は作成し、`iexplore.exe` という名前の DWORD 値を値 "0" でキーに作成します。
- ブラウザのズーム レベルを 100% に設定し、ネイティブ マウス イベントを正しい座標に調整します。

SAP の前提条件

SAP アプリケーションを自動化するには、サーバー側とクライアント側の両方でスクリプトを有効にします。

スクロール バーなどの一部の要素は、SAP クライアントを Windows クラシック デスクトップ テーマが表示されるマシンで実行する場合にのみ利用可能です。

 `sapgui/user_scripting` パラメータを変更するには、管理者権限が割り当てられている必要があります。

1. SAP クライアントで次の手順を実行します。
 - a. SAP クライアントにログオンします。
 - b. **SAP GUI Options** に移動して、スクリプトを有効にします。
 - c. 自動化プロセスの中断を避けるために、通知をオフにします。
2. SAP サーバーで次の手順を実行します。
 - a. SAP サーバーにログオンします。
 - b. トランザクション RZ11 を実行します。
 - パラメータ名 `sapgui/user_scripting` を指定し、**[Display]** をクリックします。
 - ステータス バーに `Parameter name is unknown` と表示される場合は、現在のサポート パッケージが不足しています。インストール済みのパッケージを確認します。
 - c. 値を `TRUE` に変更します。
 - d. **[Save]** をクリックします。

Desktop Automation サービスのインストール

Desktop Automation サービスをインストールする前に、システムが最小要件を満たしていること、および [Desktop Automation の要件](#) のすべての前提条件と追加の依存関係を満たしていることを確認してください。

Desktop Automation サービスをインストールして設定するには、次の手順を実行します。

- [ソフトウェアをインストールする](#)
- [仮想入力ドライバーのインストール](#)
- [仮想入力ドライバーの無効化またはアンインストール](#)
- [自動アップグレードの有効化](#)
- [Java の有効化](#)
- [SAP との統合](#)
- [サービスの設定](#)

i ターミナルを自動化するために Desktop Automation サービスをインストールする必要はありません。

ソフトウェアをインストールする

1. TungstenRPADesktopAutomationService-2026.1.msi ファイルをダウンロードして保存します。
2. Desktop Automation サービスをインストールするコンピューターでインストーラを実行します。Desktop Automation サービスは自動起動モードでインストールされます。
3. 仮想入力ドライバーをインストールするには、「[仮想入力ドライバーのインストール](#)」を参照してください。
ドライバーはデフォルトではインストールされません。

仮想入力ドライバーのインストール

サポートされているクライアントおよびサーバーのオペレーティング システムのバージョンの詳細については、『Tungsten RPA 技術仕様』を参照してください。

Desktop Automation サービス インストーラでは、ハードウェア キーボードとマウスをシミュレートする Windows デバイス ドライバーである仮想入力ドライバーをインストールするように要求されます。

1. ドライバーを初めてインストールする際に、管理者として実行している場合でも、Windows にはデバイスのインストールを確認するように要求するメッセージが表示されます。
 - アンアテンディッド インストール中にこのプロンプトを回避するには、事前に証明書を Windows Trusted Publishers ストアに追加してください。
 - Tungsten RPA Desktop Automation サービスのインストール ディレクトリの下
DesktopAutomationService\bin\inputdriver ディレクトリにある InputDriver.cat ファイルから証明書をインストールします。
2. 次のいずれかの方法でドライバーをインストールします。
 - インストーラを使用してインストールするには、インストーラの **[仮想入力ドライバー]** の手順で **[仮想入力ドライバーをインストールします]** を選択します。
 - サイレント インストール時などにコマンド ラインから仮想入力ドライバーをインストールするには、INSTALLINPUTDRIVER=1 パラメータを指定します。
3. 自動化されたコンピューターでキーボードとマウスの操作のドライバーを有効にするには、環境変数 KOFAX_RPA_VIRTUAL_INPUT を Y に設定します。

仮想入力ドライバーの無効化またはアンインストール

i ロボットの実行中に問題が発生する可能性があるため、Windows デバイス マネージャーを使用してデバイスを変更、無効化、または削除しないようにしてください。

仮想入力ドライバの使用を無効にするには、環境変数 `KOFAX_RPA_VIRTUAL_INPUT` を `N` に設定します。

ドライバーとそのデバイスをアンインストールするには、Desktop Automation をアンインストールしてください。

自動アップグレードの有効化

Desktop Automation サービス ウィンドウの **[Windows]** タブで **[パッケージをロック]** オプションが選択されていない場合は、Desktop Automation サービス バージョン パッケージが自動的にインストールされます。

初めて RoboServer の最新バージョン（直接接続が使用されている場合 Design Studio）が Desktop Automation サービスへの接続を試みる際、同サービスの最新バージョン パッケージがインストールされます。

ZIP ファイル内のパッケージは、自動化されたコンピュータの `C:\ProgramData\Tungsten RPA` にインストールされます。Tungsten RPA コンポーネントのバージョンに応じて適切なパッケージが自動的に選択されます。

詳細については、『Tungsten RPA Desktop Automation サービス ガイド』の「Desktop Automation の管理」の章にある Windows オプションを参照してください。

Java の有効化

Desktop Automation サービスは、Windows システム上のコンピューター アプリケーションに関するすべての作業プロセスを自動化するように設計されています。

Desktop Automation サービスが Windows 上のアプリケーションにアクセスするためには、次の設定手順が必要です。

関連項目: [Java Access Bridge](#)。

Java アプリケーションを使用するには、次の手順を実行します。

1. Java Access Bridge の dll をインストールする 64 ビット Java JRE または JDK をインストールします。
2. 企業ポリシーで Java のインストールが許可されていない場合は、Design Studio または RoboServer インストール フォルダで `jre\bin\WindowsAccessBridge-64.dll` ファイルを見つけて、次の手順を実行します。
 - a. Desktop Automation サービスがインストールされているコンピューターの `%WINDIR%\System32` フォルダに `.dll` ファイルをコピーします。
ここで、`%WINDIR%` は、Microsoft Windows インストール フォルダを指す環境変数です。
例: `C:\Windows`
3. 次のいずれかの方法を使用して Java Access Bridge を有効にします。
 - コントロール パネルの **Control Panel > Ease of Access Center > Use the computer without a display** から **[Java Access Bridge を有効にする]** というオプションを選択します。

- または、Java JRE インストール ディレクトリの bin サブディレクトリで次のコマンドを実行します。

```
jabswitch.exe /enable
```

SAP との統合

ロボットで SAP アプリケーションを操作するには、次の手順を実行します。

1. 製品のインストール ファイルから Desktop Automation サービスを実行しているコンピューターに **RegSAPSurrogate.reg** ファイルをダウンロードして保存します。
2. このファイルを実行し、警告を受け入れます。
3. Desktop Automation サービス エージェントを再起動します。
このファイルは、{path}\DesktopAutomationService\bin フォルダにあります。

サービスの設定

Desktop Automation サービスの設定と管理については、『Tungsten RPA Desktop Automation サービス ガイド』を参照してください。

また、『Tungsten RPA のヘルプ』の次の内容も参照してください。

- オートメーション デバイスの準備
- オートメーション デバイス マッピング要件のレビュー
- 自動化デバイス マッピングの作成
- Design Studio 設定でのユーザー設定の指定

Document Transformation サービス

Tungsten RPA 環境内の Document Transformation Service では、OCR、抽出、フィールドのフォーマット、検証などのエクスポートおよび変換機能が提供されます。

コンピューターに Tungsten RPA Document Transformation Service をインストールするには、次の内容を参照してください。

- [Document Transformation Service の要件](#)
- [インストール オプション](#)
- [IIS Web サイトの設定](#)
- [Document Transformation Service のテスト](#)
- [ローカルでの Thin Client の有効化](#)
- [認証の設定](#)
- [オンライン ラーニングの設定](#)

詳細については、Tungsten Transformation 製品ドキュメント サイトを参照してください。

Document Transformation Service の要件

Document Transformation Service をインストールする前に、システムの仕様が、以下に記載されている最小要件を満たしていることを確認してください。

- Tungsten RPA 技術仕様 ([製品ドキュメント](#) を参照)
- 『Tungsten Transformation 技術仕様』は、次の Tungsten Transformation ドキュメント サイトから取得できます。
https://docshield.tungstenautomation.com/Portal/Products/en_US/Xform/2025.1-v55djvzb3q/Xform.htm

システムの仕様が最低要件を満たしていることを確認した後に、次の点を考慮してください。

- [要件](#)
- [依存関係](#)
- [制限](#)

要件

Document Transformation Service をインストールする前に、Tungsten RPA をインストールします。

Document Transformation Service の製品バージョンが、Tungsten RPA の製品バージョンと対応している必要があります。

以下の要件を管理します。

- Tungsten Transformation または Tungsten TotalAgility を実行しているコンピュータに Document Transformation Service をインストールしないようにしてください。
- Document Transformation Service をインストールして使用する前に、すべての Windows 更新プログラムをインストールしてください。
- Windows Update を使用して必要な PowerShell バージョンをインストールします。PowerShell スクリプト `EnableDocumentTransformation.ps1` を実行するには、PowerShell バージョン 3 以降が必要です。
- Document Transformation Service には .NET バージョン 4.8 と DirectX が必要です。
- Windows 10 および Windows Server 2019 では、センチメント分析機能と名前付きエンティティ抽出機能に .NET バージョン 4.8 以降が必要です。
- 32 ビットサポートは、Document Transformation Service アプリケーション プールを有効にする必要があります。
- Tungsten RPA Document Transformation Service および Document Transformation Thin Client サーバーでは、インターネット インフォメーション サービス (IIS) と ASP.NET がインストールされている必要があります。

Windows のバージョンに応じて、これらのコンポーネントは、コントロール パネルから有効にできる Windows 機能または個別のダウンロードとして使用することができます。

インストールおよび設定の手順については、『Transformation Toolkit Thin Client サーバー開発者ガイド』を参照してください。

- Tungsten RPA Document Transformation Service および Document Transformation Thin Client サーバーの IIS サービスには、Document Transformation Service で使用されているフォルダに対する変更権限が必要です。

PowerShell スクリプト `EnableDocumentTransformation.ps1` は、これらの特権を自動的に設定します。スクリプトを使用しない場合は、IIS アプリケーション プール ユーザーに Document Transformation フォルダへのアクセスを明示的に割り当てる必要があります。

- 一部の Windows オペレーティング システムでは、localhost のマッピングが無効です。このインストールを開始する前に、hosts ファイルを変更して有効にするか、localhost を参照する 127.0.0.1 を使用します。

localhost のマッピングが無効のままにする場合は、インストールが完了した後に、Document Transformation サブフォルダ内の `Web.config` ファイルを変更します。

依存関係

考慮すべき依存関係は次のとおりです。

- バージョン 6.2 以前の Transformation モジュール、Transformation Toolkit、およびリアルタイム Transformation インターフェイス プロジェクトを再利用することができます。
- TotalAgility には、抽出/分類グループを完全な `.fpr` ファイルにエクスポートするための方法が用意されていないため、Tungsten TotalAgility プロジェクトを再利用することはできません。
- サービス拒否攻撃から保護するために、RPA では変換されたドキュメントに対するファイル サイズ制限が必要です。変換可能なドキュメントの最大サイズは 100 MB です。

ドキュメント サイズの制限をカスタマイズするには、Tungsten RPA インストール フォルダの `Tungsten DTS 2026.1.0.0\Transformation Services` フォルダにある `Web.config` ファイルで次のパラメータを編集します。

```
<httpRuntime targetFramework="4.5.1" maxRequestLength="104857600"/>
```

制限

次の機能はサポートされていません。

- リッチ クライアント ユーザー モジュール (ドキュメントのレビュー、検証、確認、および修正)
- 検証以外の Thin Client ユーザー モジュール (確認と修正)
- 検証の複数のステップ
- システム間の移行のための設定セット
- A2iA エンジン
- レポート設定

インストール オプション

デフォルトのオプションでは、インストーラを使用して Document Transformation Service とそのすべてのコンポーネントをインストールします。ただし、Tungsten Transformation Thin Client サーバーのみをインストールする場合は、手動インストール オプションを使用します。

i RPA がインストールされたコンピューターの管理者権限が必要です。インストールの問題を最小限に抑えるために、ユーザーアカウント制御 (UAC) を無効にします。

- [Document Transformation Service をインストール](#)
- [Document Transformation Thin Client をインストール](#)

Document Transformation Service をインストール

Document Transformation Service インストーラには、次のような必須コンポーネントが含まれています。

- Project Builder
- ライセンス サーバー
- Transformation サービス
- Thin Client サーバー
- 標準プロジェクト
- DTS スケジューラ

デフォルトでは、Document Transformation フォルダは C:\Document Transformation にあります。

1. Document Transformation Service インストーラを実行します。
 - a. ライセンス契約条項を読み、受け入れます。
 - b. すべてのコンポーネントを有効にします (デフォルト)。

[ライセンス ユーティリティ] ウィンドウが表示されるまで待ちます。

2. [ライセンス ユーティリティ] ウィンドウで、**[ファイル]** > **[アクティブ化]** を選択します。
3. **[アクティブ化]** ダイアログ ボックスで、次の操作を実行します。
 - a. シリアル番号を入力するか貼り付けます。
 - b. 製品コードを入力するか貼り付けます。
 - c. **[自動]** を選択します。

[ライセンス ユーティリティ] ウィンドウが更新され、使用可能なライセンスが一覧表示されます。Window を閉じる。

4. インストーラ ウィザードが完了するまで手順を実行し、**[終了]** を選択します。
5. Document Transformation Service を有効にするには、PowerShell スクリプト **EnableDocumentTransformation.ps1** を実行します。

i スクリプトを実行するには管理者権限が割り当てられている必要があります。

このスクリプトは、Thin Client をホストするために必要な IIS サービスをセットアップします。

スクリプトは Document Transformation Service インストール フォルダ (デフォルトでは C:\Program Files (x86)\Tungsten DTS 2026.1.0.0) にあります。EnableDocumentTransformation.ps1.

次の手順を実行します。

- a. 管理者権限で Windows PowerShell を開始します。
 - b. スクリプトの実行を許可するには、Set-ExecutionPolicy remotesigned PowerShell で実行します。
 - c. フォルダを c:\Program Files (x86)\Tungsten DTS 2026.1.0.0 に変更します
 - d. 適切なスクリプトを実行します。
6. コンピュータを再起動してください。
7. 変換後に手動でドキュメントを検証するために Document Transformation Thin Client が必要な場合は、「[ローカルでの Thin Client の有効化](#)」を参照してください。

Document Transformation Thin Client をインストール

「[Document Transformation Service をインストール](#)」に記載されているデフォルトのセットアップをインストールせず、Document Transformation Thin Client が必要である場合は、次の手順に従って手動でインストールを行います。

前提条件と要件については、Tungsten Transformation ドキュメント サイトの『Tungsten Transformation Thin Client サーバー インストール ガイド』を参照してください。

サポートされている Windows Server に Document Transformation Thin Client をインストールします。『Tungsten RPA 技術仕様』を参照してください。

1. 製品ファイル フォルダで **TungstenRPADocumentTransformationService-[バージョン].msi** を実行して、インストールを開始します。
2. **[次へ]** を選択してソフトウェアをインストールします。
IIS がインストールされていない場合は、メッセージが表示されます。この時点ではこのメッセージを無視し、後ほど IIS をインストールしてください。
3. エンドユーザー ライセンス契約条項を読み、条件に同意する場合は、**[ライセンス契約条項の条件に同意する]** オプションを選択し、**[次へ]** を選択します。ライセンス契約条項に同意しない場合は、**[キャンセル]** を選択して終了します。
4. 必要に応じて、デフォルトのインストールの場所またはフォルダ名を変更します。
 - a. **[変更]** を選択します。
 - b. 新しい場所を入力し、**[OK]** を選択します。
5. **[次へ]** を選択します。
6. **[インストール]** を選択します。
7. インストールが完了した後に、**[終了]** を選択します。

8. **[インターネット インフォメーション サービス (IIS) マネージャー]** を使用して、Thin Client サーバー機能の委任を設定します。
 - a. **[接続]** ペインで、サーバーのホーム ノードを選択します。
中央のパネルが更新され、ホーム ノードの設定のリストが表示されます。
 - b. 中央のパネルの **[管理]** グループで、**[機能の委任]** をダブルクリックします。
[機能の委任] ページが表示されます。
 - c. ページ上部の **[グループ化]** リストから、**[委任]** を選択します。
設定のリストが更新され、認証設定が読み取り専用になります。
 - d. 読み取り専用設定のリストから、**[認証 - Windows]** を選択します。
選択した設定のリストが右側のパネルに表示されます。
 - e. **[読み取り/書き込み]** を選択します。
設定は **[読み取り/書き込み]** カテゴリに移動します。
9. **[インターネット インフォメーション サービス (IIS) マネージャー]** を使用して、Thin Client サーバーの Web サイトを設定します。
 - a. **[接続]** ペインで、**[サイト]** フォルダを展開します。
 - b. **[デフォルトの Web サイト]** を右クリックし、メニューから **[アプリケーションの追加]** を選択します。
[アプリケーションの追加] ウィンドウが表示されます。
 - c. アプリケーションの **エイリアス** (「ThinClientServer」など) を入力します。
 - d. **[アプリケーション]** プールを選択し、**[OK]** を選択します。
デフォルトでは「DefaultAppPool」が選択されています。
 - e. この Web サイトのパスを設定するには、Thin Client サーバーをインストールした場所を参照して、**[OK]** を選択します。
10. 左側の **[接続]** ペインから、新しく追加したサイトをもう一度選択します。
機能のリストが中央のペインに表示されます。
 - a. IIS セクションで **[認証]** 機能をダブルクリックします。
認証タイプのリストが中央のペインに表示されます。
 - b. **[ASP.NET]** 偽装オプションを選択し、**[無効]** になっていることを確認します。
 - c. **World Wide Web 発行サービス** を再起動します。
11. 機能のリストから **[IIS]** グループの **[MIME タイプ]** をダブルクリックし、下にスクロールして `.json` 拡張子が MIME タイプに含まれていることを確認します。
`.json` 拡張子がリストにない場合は、次の手順に従って拡張子を追加します。
 - a. **[アクション]** ペインで、**[追加]** を選択します。
[MIME タイプを追加] ウィンドウが表示されます。
 - b. **[ファイル名の拡張子]** フィールドに「`.json`」と入力します。
 - c. **[MIME タイプ]** フィールドに「`application/json`」と入力します。

d. **[OK]** を選択します。

json MIME 拡張子が利用できるようになりました。

12. **[接続]** ペインで **[アプリケーション プール]** 設定を選択します。

アプリケーション プールのリストが右側に表示されます。

- a. アプリケーションを追加するときに選択したアプリケーション プールを右クリックし、**[詳細設定]** を選択します。
[詳細設定] ウィンドウが表示されます。
- b. **[一般]** グループで、**[32 ビット アプリケーションの有効化]** を **True** に設定します。
- c. **[プロセス モデル]** グループで、**[ワーカー プロセスの最大数]** オプションを **1** (デフォルト) に設定します。
- d. 暗号化されたファイル システムを使用している場合は、必要に応じて、プロセス モデル グループから **[アイデンティティ]** 設定を選択し、カスタム アカウントに変更します。
カスタム アカウントには、ネットワーク サービス アカウントと同じ権限が割り当てられている必要があります。
 - **アイデンティティ** 値の右側にあるボタンを選択します。
[アプリケーション プールのアイデンティティ] ウィンドウが表示されます。
 - **カスタム アカウント** 設定を選択し、**[設定]** を選択します。
 - ユーザー名、パスワード、およびパスワードの確認を入力し、**[OK]** を選択します。
 - **[OK]** を選択して **[アプリケーション プールのアイデンティティ]** ウィンドウを閉じ、もう一度選択して **[詳細設定]** ウィンドウを閉じます。
- e. 選択したアプリケーション プールをダブルクリックします。
[アプリケーション プールの編集] ウィンドウが表示されます。
- f. **.NET CLR** バージョンのリストから、**[.NET Framework v4.0.30319]** を選択します。
- g. **[OK]** を選択して、**[アプリケーション プールの編集]** ウィンドウを閉じます。

13. IIS ユーザー アカウント **IUSR** が **IIS_IUSRS** グループの一部であることを確認します。

14. **[サービス]** を開き **[World Wide Web 発行サービス]** が自動的に開始するように設定されていることを確認します。

ローカルでの Thin Client の有効化

Document Transformation Thin Client を有効にするには、次のように **KTSUsers** という名前のローカル ユーザー グループを追加します。

1. **[開始]** > **Accessories** > **[実行]** を選択して 実行の Window を開きます。
2. [ファイル名を指定して実行] ウィンドウで **compmgmt.msc** と入力し、**[OK]** を選択します。
3. 左側のペインで **Local Users and Groups** を展開し、**[グループ]** を右クリックして、**[新しいグループ]** を選択します。
4. **[グループ名]** ボックスに **KTSUsers** と入力して、メンバーの下の **[追加]** を選択します。

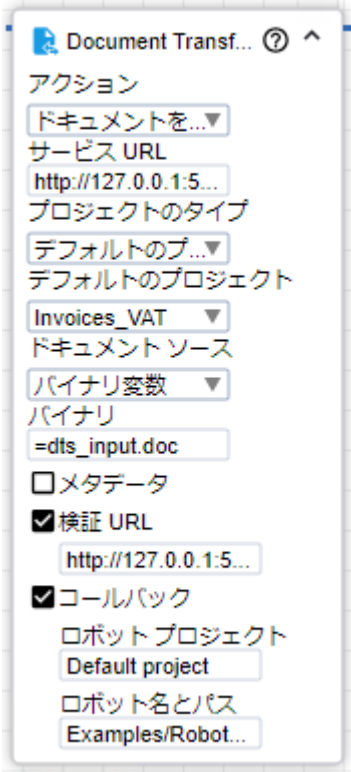
5. 独自のユーザーを新しいローカルグループに追加します。

これで、ユーザー資格情報を使用して Document Transformation Thin Client にログインできるようになりました。

ローカル Thin Client へのパス

Thin Client は IP アドレス 127.0.0.1 port 50082 に自動的にインストールされバインドされます。

[Document Transformation] ステップで Thin Client オプションを使用するには、ロボットワークフローでこのステップを作成または編集する際に **[Thin Client URL]** プロパティに `http://127.0.0.1:50082` と入力します。



IIS Web サイトの設定

RPA で Document Transformation Service を使用するには、IIS マネージャーを使用して 2 つの Web サイト (1 つは Document Transformation Service 用、もう 1 つは Document Transformation Thin Client 用) を設定する必要があります。

Web サーバーのデフォルトの場所:

- C:\Document Transformation\Client
- C:\Document Transformation\Service

どちらの Web サイトにも、変更する必要がある `Web.config` ファイルがあります。

- [Document Transformation の Web.config の設定](#)
- [Document Transformation Thin Client の Web.config の設定](#)
- [複数の Management Console インスタンスの設定](#)
- [バッチ フォルダのクリア](#)

Document Transformation の `Web.config` の設定

必要に応じて、次の設定を検証して編集します。

- 検証のためにドキュメントを配置する場所を指定するための `BatchValidationFolder`。
- サービスが Document Transformation プロジェクトを検索する場所を指定するための `ProjectsFolder`。
- Document Transformation ロボット ステップの設定でカスタマイズしていない場合、`ValidationService` は Document Transformation Thin Client のデフォルトの場所です。
- `Web.config` ファイルで、置き換えます `localhost` と `127.0.0.1` オペレーティング システムにマップされていない場合。
または、`TransformationService` および `ValidationService` のポート番号を変更します。
- ドキュメントのサイズ制限をカスタマイズするには、`Web.config` ファイルで次の 2 つのパラメータを編集します。

```
<httpRuntime targetFramework="4.5.1" maxRequestLength="104857600"/>
```

```
<requestLimits maxAllowedContentLength="104857600"/>
```

ドキュメントの最大サイズは 100 MB です。

例: `Web.config` Document Transformation の設定

```
<TransformationService.Properties.Settings>
  <setting name="BatchValidationFolder" serializeAs="String">
    <value>C:\Document Transformation\Batch\Validation</value>
  </setting>
  <setting name="TransformationService" serializeAs="String">
    <value>http://localhost:50081</value>
  </setting>
  <setting name="ValidationService" serializeAs="String">
    <value>http://localhost:50082</value>
  </setting>
  <setting name="ProjectsFolder" serializeAs="String">
    <value>C:\Document Transformation\Project</value>
  </setting>
</TransformationService.Properties.Settings>
</applicationSettings>
```

Document Transformation Thin Client の `Web.config` の設定

Document Transformation Thin Client 設定ファイルで、次の設定を編集します。

- 検証のために送信されるドキュメントをサーバーが検索する場所を指定するための `BatchFolder`。
- Management Console による認証用の共有シークレットを含むファイルへのパスを指定するための `SharedSecretFile`。

- SharedSecretFile が空であるか、ファイルを読み取ることができない場合にのみ、Management Console による認証用の共有シークレットを格納する SharedSecret。
- 複数の Management Console を使用する場合の共有シークレットの設定については、「[複数の Management Console インスタンスの設定](#)」を参照してください。

インストール後、組み込みプロジェクトは次のデフォルトの場所に配置されます。

C:\Document Transformation\Projects

例: Web.config Document Transformation Thin Client の設定

```
<Kofax.KTS.Backend.Kapow.Properties.Settings>
<setting name="ReportingEnabled" serializeAs="String">
<value>False</value>
</setting>
<setting name="BatchFolder" serializeAs="String">
<value>C:\Document Transformation\Batch</value>
</setting>
<setting name="SharedSecret" serializeAs="String">
<value>5XVPObyR2jC0BeWMN0fnob7AjYaGvcDVh7MD0CwgBY8AQQLdg22m_bn2nfNFICgXoqHA4zLwym
05yUwnbyp6tw</value>
</setting>
<setting name="SharedSecretFile" serializeAs="String">
<value/>
</setting>
</Kofax.KTS.Backend.Kapow.Properties.Settings>
```

複数の Management Console インスタンスの設定

Document Transformation Service サービスで使用されている Management Console インスタンスが 1 つのみである場合は、共有シークレットを Web.config ファイルに直接そのまま挿入するか、共有シークレットを含むファイルを作成する必要があります。

複数の Management Console インスタンスに接続可能である場合は、異なるインスタンスを Document Transformation Thin Client が区別できるようにする必要があります。

この操作を行うには、各共有シークレットの先頭に次の形式でホスト ID を付ける必要があります:

`<host>:<port>#<secret>`。ここで、

- `<host>` は Management Console がインストールされているシステムの DNS または IP アドレスです。
これは、Document Transformation Service を使用しているロボットを実行する Design Studio または RoboServer の設定の Management Console の URL 設定と正確に一致している必要があります。
- `<port>` は Management Console が接続されているポートです。
Management Console でデフォルトの HTTP (80) または HTTPS (443) ポートを使用している場合であっても、ポートを指定する必要があります。
- `<secret>` は、この Management Console インスタンスの Document Transformation Service の共有シークレットです。
- 複数の共有シークレットは、改行記号または ; 文字で区切る必要があります。

Document Transformation Thin Client が URL に基づいて Management Console を検索できない場合は、デフォルトで ...# という接頭辞のないデフォルトの値に設定されます。

共有シークレットを取得するには、次の手順を実行します。

1. Management Console を開き、**[管理] > [サービス認証]** を選択します。
2. [Document Transformation Service] のコンテキストメニューをクリックし、**[共有シークレットを表示]** を選択して、共有シークレットをクリップボードにコピーします。
3. 共有シークレットを Web.config ファイルの SharedSecret に貼り付けます。

例: シングル Management Console

2 つの Management Console インスタンスの共有シークレットを設定します。この場合、最初の (ローカル) インスタンスは 3 つの異なる方法で設定します。

```
<setting name="SharedSecret" serializeAs="String">
  <value>-ZJ61T82PdU7QGeVcDNyse98MEeQJcMPIr4rETesFE46SDzaBM2LIzi-
JK3SLx9_4S-9QMpYqeT0x9Yz91IUgQ</value>
</setting>
```

例: 複数の Management Console インスタンス

```
<setting name="SharedSecretFile" serializeAs="String">
  <value>C:\Document Transformation\ManagementConsoleSecrets.txt</value>
</setting>
```

ここで、ファイル C:\Document Transformation\ManagementConsoleSecrets.txt には次の行が含まれています。

```
localhost:50080#-ZJ61T82PdU7QGeVcDNyse98MEeQJcMPIr4rETesFE46SDzaBM2LIzi-
JK3SLx9_4S-9QMpYqeT0x9Yz91IUgQ
127.0.0.1:50080#-ZJ61T82PdU7QGeVcDNyse98MEeQJcMPIr4rETesFE46SDzaBM2LIzi-
JK3SLx9_4S-9QMpYqeT0x9Yz91IUgQ
192.168.19.134:50080#-ZJ61T82PdU7QGeVcDNyse98MEeQJcMPIr4rETesFE46SDzaBM2LIzi-
JK3SLx9_4S-9QMpYqeT0x9Yz91IUgQ
productlon.domain.corp:8080#7kKmke0HKYhkhVEoRPQSQcuPJY-gpGtlGO-
rAaJhFPahYnz28e9ZNtsRMsKxcBfz-2Nq1bf04zVAfyORn5Zlug
```

バッチ フォルダのクリア

バッチ フォルダに不要なバッチやドキュメントが大量に蓄積された場合は、手動で削除します。

また、バッチとドキュメントをエラー フォルダから削除するか、バッチ フォルダまたは検証フォルダに移動して、検証および追加の処理用に再送信します。

Document Transformation Service のテスト

インストールと設定の完了後に、すべての機能が動作することを確認します。

デフォルト プロジェクトの [Examples] フォルダには、Document Transformation Service および Document Transformation のロボット ステップをテストするためのロボットが含まれています。

1. Management Console を起動します。
2. コマンド ウィンドウに、HTTP Connector started on port 50080 が表示されていることを確認します。

Management Console は、アクティブ化したライセンスを使用する Design Studio のライセンスサーバーとして機能します。

3. Design Studio を開きます。

選択したブラウザで、ライセンスサーバーとして機能する Management Console が開きます。

4. ブラウザの **[ライセンス情報を入力]** ウィンドウでライセンスサーバーの URL を入力し、**[OK]** をクリックします。

Management Console での認証後に、Design Studio でプロジェクトの使用を開始します。

5. **[マイ プロジェクト]** ビューで、**[ローカル] > [2026.1.0.0] > [Examples] > [ロボット]** を展開します。

6. Document Transformation サービスをテストするには、**TestDocumentTransformationServiceBasic** ロボットと **TestDocumentTransformationService** ロボットを見つけます。

7. これらのロボットを Management Console の共有プロジェクトにアップロードします。

a. ロボットを右クリックし、**[アップロード]** を選択します。

b. **[Management Console へアップロード]** ウィンドウで、ライセンスサーバーとして機能している Management Console を選択し、**[これを記憶する (シェア プロジェクトとして)]** を選択して、**[アップロード]** を選択します。

8. **TestDocumentTransformationServiceBasic** ロボットを開き、**[実行の準備]** ボタンを選択します。

最初にここをクリックのステップを選択し、メッセージを読んだ後、**次にここをクリック**を選択します。

ウィンドウに「おめでとうございます。適切に実行されています。」というメッセージが表示された場合は、コンピュータで Document Transformation Service が正しく設定されています。

インストールで問題が発生した場合は、このドキュメントの「[トラブルシューティング](#)」を参照してください。

認証の設定

シングル サインオン (SSO) 認証を使用すると、現在のユーザーの Windows 資格情報を使用して、デフォルトのログイン画面をスキップできます。

i SSO を有効にすると、現在ログインしている Windows アカウントが使用されるため、ユーザーを変更することはできません。サーバーが実行されているコンピュータとは異なるコンピュータからクライアントにアクセスする場合は、Windows アカウントがサーバーの正しいドメインにあることを確認してください。

SSO 認証を無効にするには、`Web.config` ファイルの値をデフォルト値に戻します。

アクティブな Windows アカウントを使用して SSO を有効にするには、Web.config ファイルを変更します。

1. Document Transformation クライアント フォルダに移動し、Web.config ファイルを開きます。
2. SSO に関するコメントでマークされたセクションを見つけて、次の変更を適用します。
 - a. windowsAuthentication ノードを見つけて、enabled 属性を **true** に変更します。

```
<windowsAuthentication enabled="true"
```

- b. webHttpBinding ノードの下で transport ノードを見つけて、clientCredentialType 属性を **Windows** に変更します。

```
<transport clientCredentialType="Windows" />
```

- c. customBinding ノードの下で httpTransport ノードを見つけて、authenticationScheme 属性を **Negotiate** に変更します。

```
<httpTransport authenticationScheme="Negotiate"
```

- d. AuthenticationWithSingleSignOn の設定値を **True** に変更します。

```
<setting name="AuthenticationWithSingleSignOn" serializeAs="String"> <!-- Use  
'False' for the non-SSO case, and 'True' for SSO. --> <value>True</  
value>
```

- e. ShowLoginDialog の設定値を **False** に変更します。

```
<setting name="ShowLoginDialog" serializeAs="String"> <!-- Use 'True' for the  
non-SSO case, and 'False' for SSO. --> <value>False</value>
```

オンライン ラーニングの設定

Document Transformation Service は、失敗した結果を使用して、将来処理されるドキュメントを改善するインテリジェントな抽出方法を提供します。この機能は、請求書などのサンプル ドキュメントのレイアウトをシステムに記憶させるトレーニングに基づいています。

自動フィールド補完の使用、手動での入力、または変換されたドキュメントでの正しい値の選択を行うことで、次回に同様のドキュメントの抽出結果を改善するようにシステムをトレーニングします。

デフォルトでは、この機能はインストール パッケージに含まれている請求書プロジェクトですすでに有効になっています。

Document Transformation Service を使用すると、収集された抽出データまたはオンライン ラーニングデータをインポートして、プロジェクトを手動で更新することができます。

i 検証のため、Document Transformation Service で新しいプロジェクトを作成するとき、バージョン番号には、Project_1 のようなプロジェクトを追加することをお勧めします。収集されたオンラインラーニングデータをインポートした後、このプロジェクトを Project_2 として保存します。このアプローチにより、システムはドキュメントの検証用に古いプロジェクト Project_1 を引き続き使用できます。その後、後続のプロジェクト (Project_2 など) を使用するようそれぞれのロボットを更新します。

検証が完了した後に、古いプロジェクトを削除し、新しい学習済みのデータのセットがインポートされるまで、新しいプロジェクトを引き続き使用します。

オンラインラーニングの詳細については、Tungsten Transformation ドキュメントの Web サイトを参照してください。

Document Transformation Service が複数のサーバーにインストールされている場合は、すべてのサーバーがドキュメントにアクセスできるように、ネットワーク共有ディレクトリを指定することをお勧めします。

あるいは、デフォルトの Document Transformation フォルダを共有フォルダにして、Tungsten Transformation サービス、Document Transformation Service、および Document Transformation Thin Client が UNC パスを使用するように設定することもできます。

オンラインラーニングをカスタマイズするには、Document Transformation Service の **[プロジェクト設定]** の **[一般]** タブを使用します。

- カスタムプロジェクトの場合は、オンラインラーニングが有効になっているプロジェクトごとにフォルダを作成します。
- トレーニングドキュメントを保存するフォルダへのパスを設定する場合は、その場所がすでに存在することを確認してください。存在しない場合は、最初にその場所を作成します。

Tungsten Analytics for RPA

Tungsten Analytics を使用して、ロボットの実行の分析と統計を行います。

システムが最小要件を満たしていることを確認してください。詳細については、『Tungsten RPA 技術仕様』を参照してください。

Tungsten Analytics for RPA をインストールして設定するには、『Tungsten RPA ユーザーガイド』を参照してください。

第4章

トラブルシューティング

この章の情報を使用して、インストール中およびインストール後に発生する問題のトラブルシューティングを行います。

- [ログ ファイル](#)
- [Windows のエラー](#)
- [Document Transformation サービスのエラー](#)
- [ライセンス ユーティリティ関連のエラー](#)
- [変換の失敗エラーまたはタイムアウト エラー](#)
- [Insight ダッシュボードのタイムゾーン](#)

ログ ファイル

RPA は、C:\Users\{UserAccount}\AppData\Local\Temp にインストール ログファイルを作成します。

追加のヘルプが必要な場合は、それらのファイルを確認するか、サポート リクエストを送信する際に Tungsten Automation テクニカル サポートに提供してください。

Windows のエラー

Windows への RPA のインストール時に発生する一般的な問題を解決するには、次の情報を参照してください。

モジュールが見つからない

「Module <modulename> not found」などのエラーが発生した場合は、Microsoft ダウンロード センターにアクセスして、Windows バージョン用の更新プログラムを見つけてください。

<modulename> には、automationnative、cef、またはその他のモジュール名が表示されることに注意してください。

使用しているバージョンの Windows で Windows アップデートが利用できない場合は、次の回避策を用いてください。

1. c:\temp\976571 フォルダを作成します。

2. MSU ファイルの内容を抽出するには、次のようなコマンドを入力します。

```
Expand -F:* c:\kb976571\Windows6.1-KB976571-v2-x64.msu c:\temp\976571
```

このコマンドにより、複数のファイルを抽出します。

3. 次のコマンドを実行します。

```
DISM.exe /Online /Add-Package /PackagePath:c:\temp\976571\Windows6.1-KB976571-v2-x64.cab
```

4. 詳細については、Microsoft TechNet Web サイトにアクセスし、「DISM を使用して Windows 内から修正プログラムをインストールする方法」を検索してください。「」

テキストがボックスとして表示される

RPA アプリケーションでテキストがボックスとして表示される場合は、そのテキストをレンダリングするために必要なフォントが不足しています。

Windows は、インストール メディアの言語に基づいて、限られたフォントのセットのみをインストールします。

追加のフォントについては、[オプション機能の管理] ツールを使用して、追加フォント機能として有効にする必要があります。

i タイ語のスク립トを正しく表示するには、[タイ語補助フォント] 機能と [ラオス語追加フォント] 機能の両方を有効にします。

Document Transformation サービスのエラー

RPA に Document Transformation サービスをインストールした後に発生する一般的な問題を解決するには、次の情報を参考にしてください。

ライセンス ユーティリティ関連のエラー

ライセンス サーバーが実行されていることを確認してください。

また、ライセンス ユーティリティ起動して、エラーが発生せずにライセンス情報が表示されることを確認してください。

変換の失敗エラーまたはタイムアウト エラー

ロボットの「次にここをクリック」ステップをクリックした後にこのエラーが発生した場合は、原因となる次のような要因を確認してください。

- Document Transformation サービス スケジューラが実行されていません。
- ライセンス サーバーが実行されていません。
- `Web.config` の設定が不完全である。
- ご使用のバージョンに誤ったライセンスが指定されました。

Insight ダッシュボードのタイムゾーン

Insight ダッシュボードでデータが正しく表示されるようにするには、RoboServer の時刻がタイムゾーンに従って Java で正しく設定されていること、およびコンピューターで Management Consoles が実行されていることを確認してください。

Oracle の Web サイトにアクセスし、「JRE ソフトウェアのタイムゾーン データのバージョン」を検索して、最新のソフトウェア アップデートをダウンロードします。

必要に応じて、タイムゾーン アップデータ ツールを使用してタイムゾーン情報を更新します。